令　和　８　年　度

県　政　世　論　調　査

概　要　報　告　書



２０２６

静　岡　県

目　　次

調査の概要……1

生活についての意識

1　暮らし向き……2
2　日常生活の悩みや不安……3
3　静岡県の住みよさ……4

県の仕事に対する関心

4　県政への関心度……5
5　県への意見や要望、不満……6
6　広報媒体の浸透度……9
7　日常の課題や生活における意識……11

主要施策調査

8　体感治安に関する意識……24
9　森林整備に関する意識……25
10　安心・幸せな暮らしに関する意識……26

調査の概要

1　調査の目的

県民の生活や、県政の主要課題についての意識などを把握し、県政推進のための基礎的な資料とする。

2　調査の内容

（1）生活についての意識
（2）県の仕事に対する関心
（3）主要施策調査

3　調査の設計

（1）調査地域　静岡県全域
（2）調査対象　県内の市町に居住する満18歳以上の県民
（3）配 布 数　3,000
（4）抽出方法　層化二段無作為抽出法
（5）調査方法　郵送配布（郵送及びＷＥＢ回収）
（6）調査時期　令和８年６月９日～６月29日
（7）調査機関　株式会社サーベイリサーチセンター静岡事務所

4　回収結果

	18歳以上の推定人口（※）	対象者数	有効回収
東　　部	967,418	995	533（53.6%）
中　　部	934,702	948	498（52.5%）
西　　部	1,052,956	1,057	576（54.5%）
地域不明	－	－	1（0.00%）
全　　体	2,955,076	3,000	1,608（53.6%）

※選挙人名簿登録者数（令和８年４月18日時点）

この冊子の読みかた

1　結果は百分率で表示し、小数点第２位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
2　数値やグラフの中の「件数」、「ｎ」（number of cases の略）は回答者総数（あるいは分類別の該当者数）を示し、回答比率はこれを100％で表した。「ＳＱ」（Sub-Question の略）は前問で特定の回答をした一部の回答者のみに続けて行った質問を示す。
3　標本誤差に応じて集計値を補正している。そのため、各設問・選択肢の回答状況が本来の有効回答数（ｎ＝1,608）に占める割合と一致しない部分があり、混乱を避けるため報告書のグラフ等においては回答者数（ｎ）を表記していない。

生活についての意識

1　暮らし向き　――　「苦しくなっている」は51.2%

Q1	お宅の暮らし向きは、去年の今頃とくらべて楽になっていますか、苦しくなっていますか、同じようなものですか。（○は１つ）
SQ	お宅の暮らし向きが「苦しくなっている」と感じる理由はなんですか。（○は３つまで）

暮らし向き

●「苦しくなっている」と回答した人の割合が51.2%と最も高く、「同じようなもの」の44.8%を上回っている。

経年比較

●「苦しくなっている」人の割合は、今年度は51.2%（前年度比－2.8ポイント）と過去５年間は５割前後となっている。

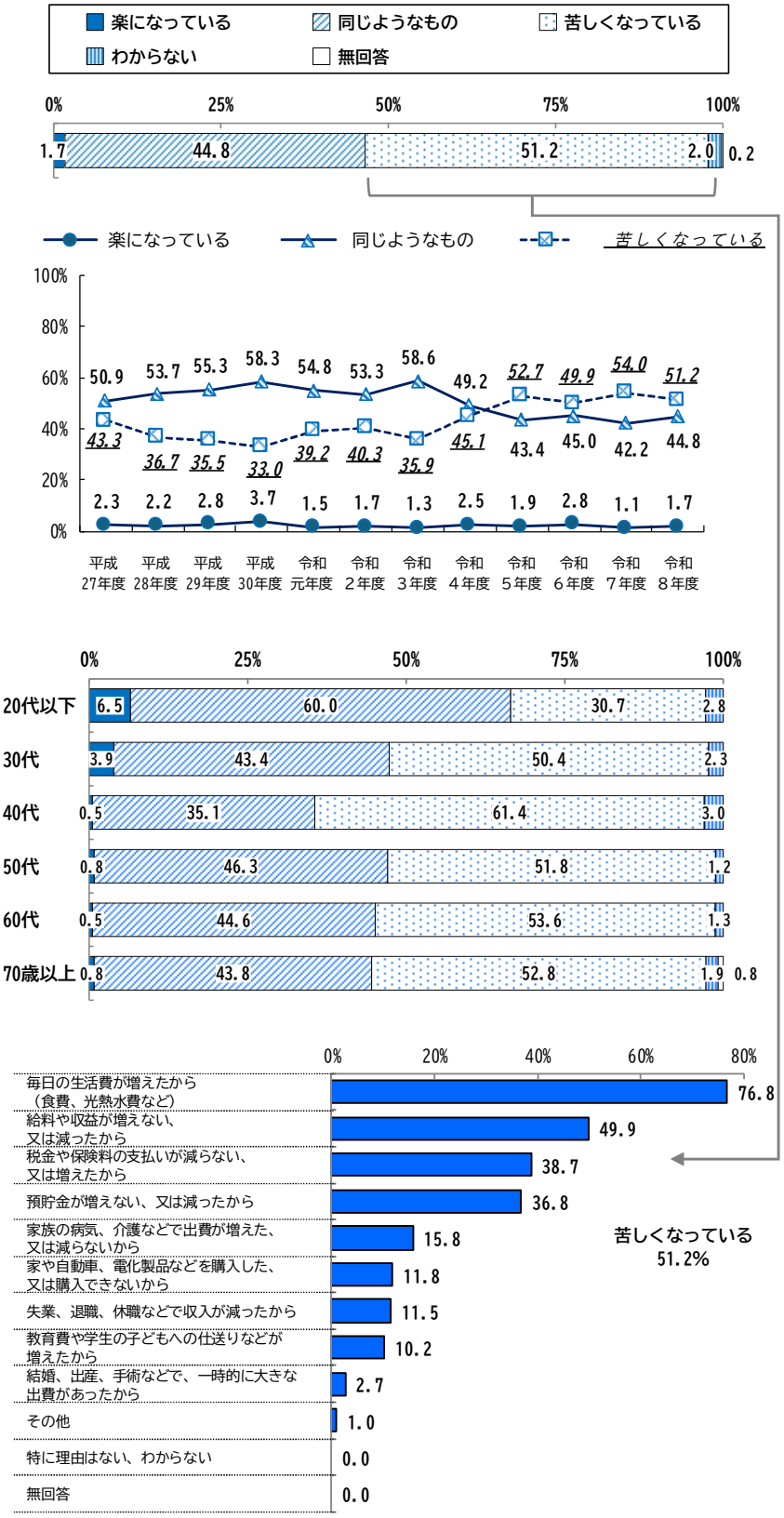
年代別

●30代以上のすべての年代において、「苦しくなっている」と回答した人の割合が「同じようなもの」を上回っている。

●「苦しくなっている」人の割合は、『40代』(61.4%) が最も高く、『20代以下』(30.7%) が最も低くなっている。

SQ　苦しくなっている理由

●「毎日の生活費が増えたから（食費、光熱水費など）」(76.8%) が最も高く、以下「給料や収益が増えない、又は減ったから」(49.9%)、「税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから」(38.7%) などとなっている。

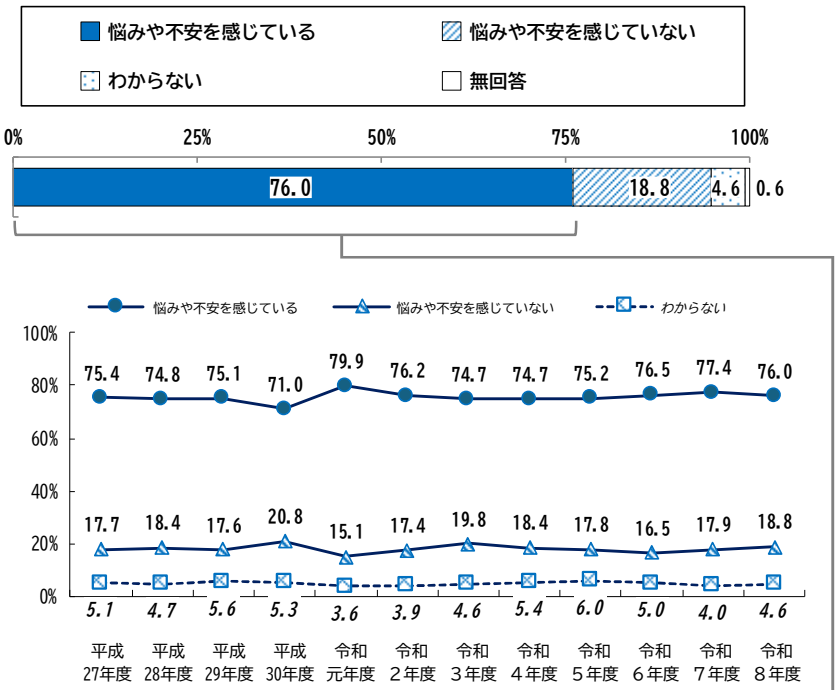


2　日常生活の悩みや不安　――　「悩みや不安を感じている」人は76.0%

Q2	あなたは、日常生活の中で、悩みや不安を感じていますか。それとも特に悩みや不安は感じていませんか。（○は１つ）
SQ	悩みや不安を感じていることは、どのようなことですか。（○はいくつでも）

日常生活の悩みや不安の有無

「悩みや不安を感じている」と回答した人の割合は76.0%、「悩みや不安を感じていない」は18.8%だった。

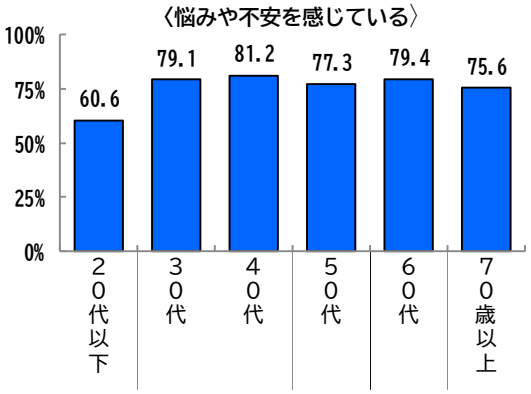


経年比較

●「悩みや不安を感じている」人の割合は、令和元年度以降、75%前後で推移している。

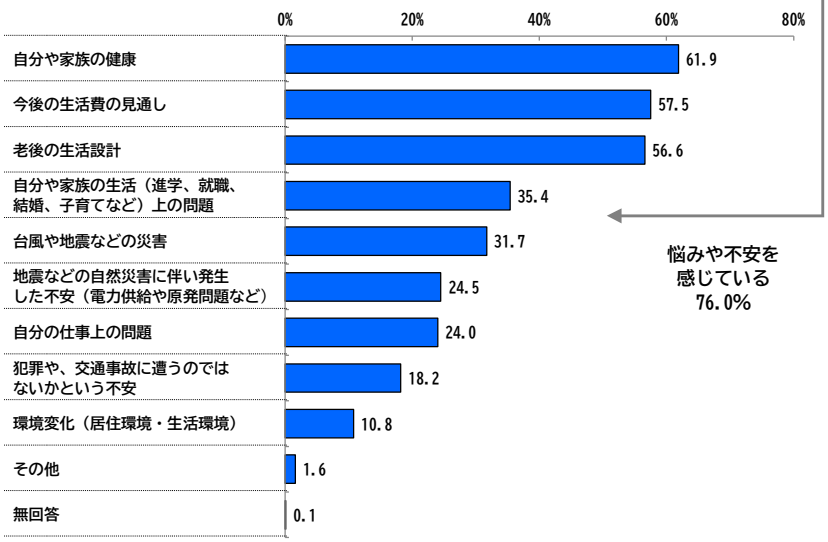
年代別

●「悩みや不安を感じている」人の割合を年代別にみると、『40代』（81.2%）が最も高く、『20代以下』（60.6%）が最も低くなっている。



SQ　悩みや不安の内容

●「自分や家族の健康」（61.9%）が最も高く、以下「今後の生活費の見通し」（57.5%）、「老後の生活設計」（56.6%）などとなっている。

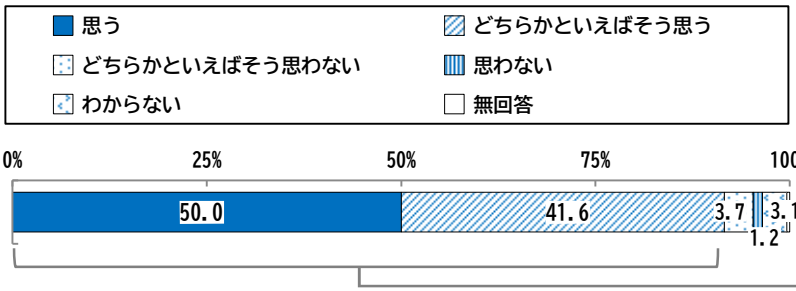


3　静岡県の住みよさ　――　住みよいところだと「思う」人は91.6%

Q3	あなたは、静岡県は住みよいところだと思いますか。（○は１つ）
SQ	あなたが、静岡県は住みよいところだと思う理由はなんですか。（○は３つまで）

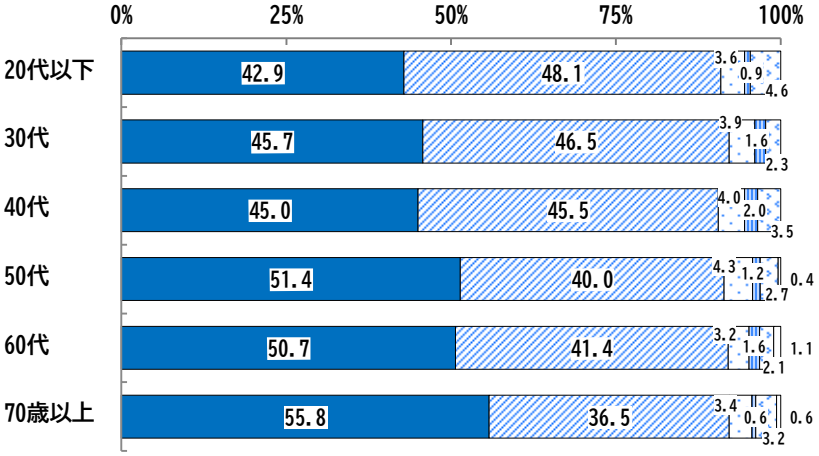
静岡県の住みよさ

●静岡県は住みよいところだと“思う”人のほうが圧倒的に高く、「思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた“思う”が91.6%、「どちらかといえばそう思わない」と「思わない」を合わせた“思わない”が4.9%となっている。



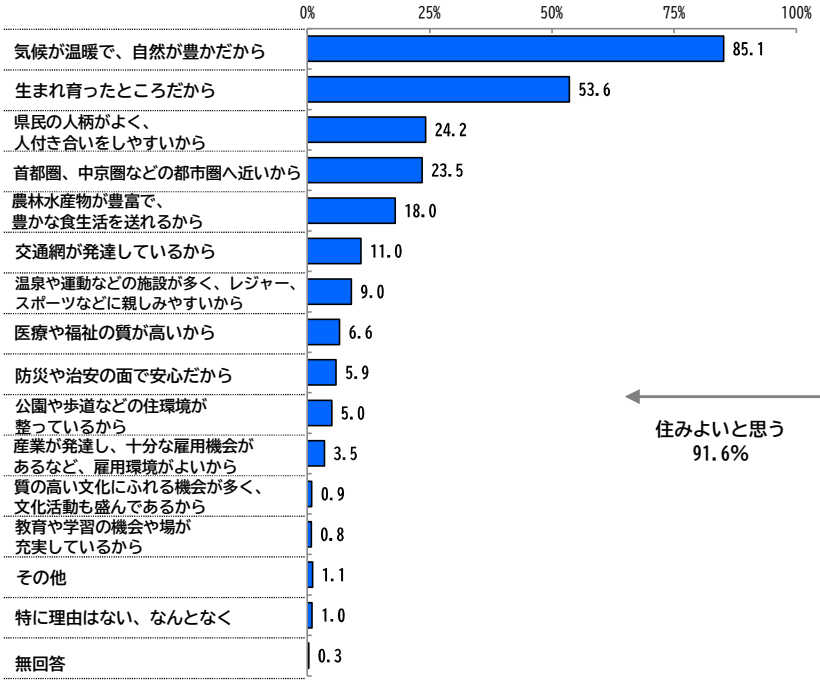
年代別

●『70歳以上』は「思う」(55.8%)と「どちらかといえばそう思う」(36.5%)を合わせた“思う”が92.3%と高い一方、『20代以下』でも91.0%が“思う”となっている。



SQ　住みよいところだと思う理由

●「気候が温暖で、自然が豊かだから」(85.1%)が最も高く、以下「生まれ育ったところだから」(53.6%)、「県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから」(24.2%)などとなっている。



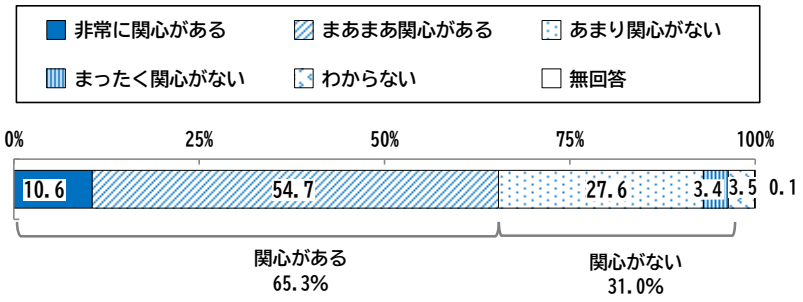
県の仕事に対する関心

4　県政への関心度 ―― 「関心がある」人は65.3%

Q4	あなたは、県の政治や行政にどの程度関心がありますか。（○は１つ）
SQ1	県の政治や行政に関心がある理由はなんですか。（○は１つ）
SQ2	県の政治や行政に関心がない理由はなんですか。（○は１つ）

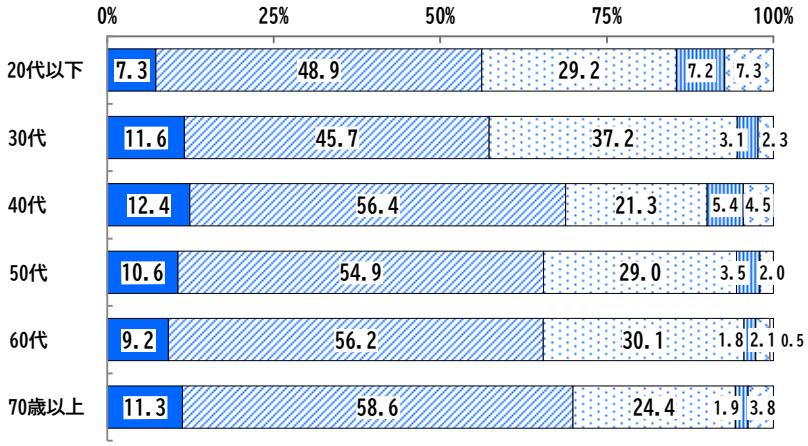
県政への関心の有無

● 「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」を合わせた“関心がある”は65.3%、「あまり関心がない」と「まったく関心がない」を合わせた“関心がない”は31.0%となっている。



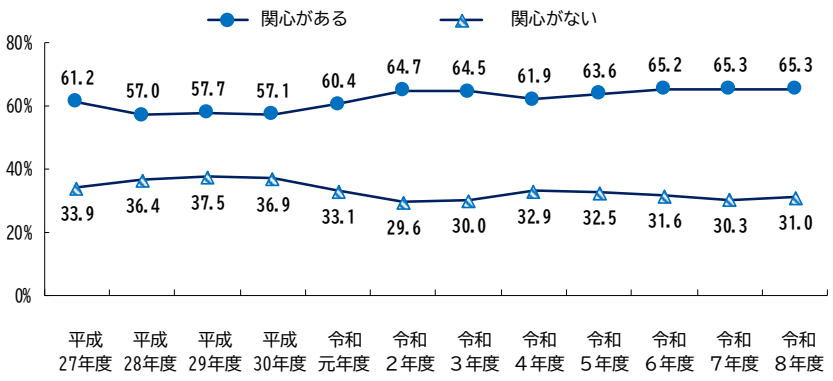
年代別

●『70歳以上』は「非常に関心がある」（11.3%）と「まあまあ関心がある」（58.6%）を合わせた“関心がある”が69.9%と高い一方、『20代以下』では56.2%が“関心がある”となっている。



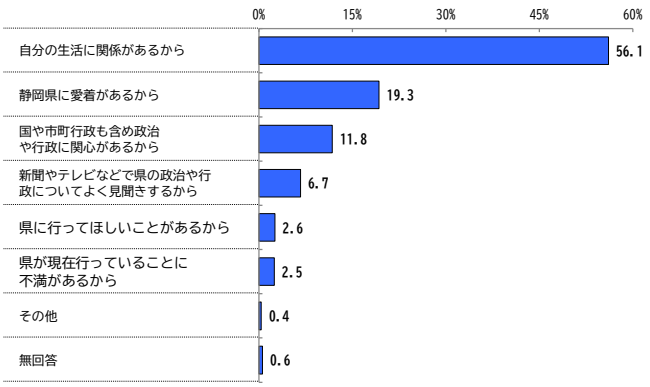
経年比較

●「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」を合わせた“関心がある”の割合は令和元年度以降、６割以上で推移している。



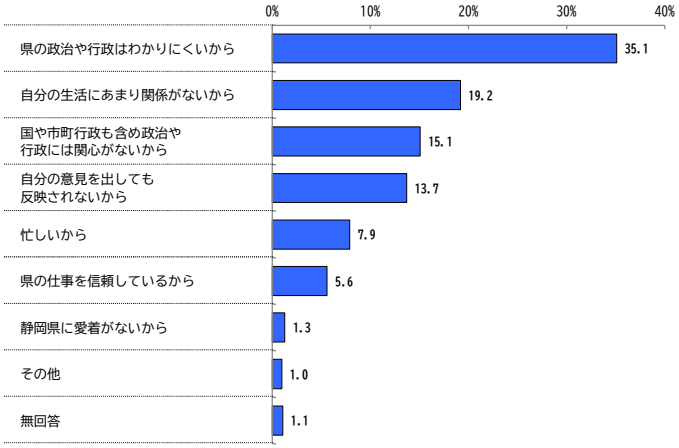
SQ1　県政に関心がある理由

●「自分の生活に関係があるから」（56.1%）が最も高く、以下「静岡県に愛着があるから」（19.3%）、「国や市町行政も含め政治や行政に関心があるから」（11.8%）などとなっている。



SQ2　県政に関心がない理由

●「県の政治や行政はわかりにくいから」（35.1%）が最も高く、以下「自分の生活にあまり関係ないから」（19.2%）、「国や市町行政も含め政治や行政には関心がないから」（15.1%）などとなっている。





5　県への意見や要望、不満　―― 意見等が「ある」人は 34.1%

Q５　あなたは、この１年間に静岡県の仕事について、意見や要望を持ったり、不満を感じたりしたことがありますか。（○は１つ）

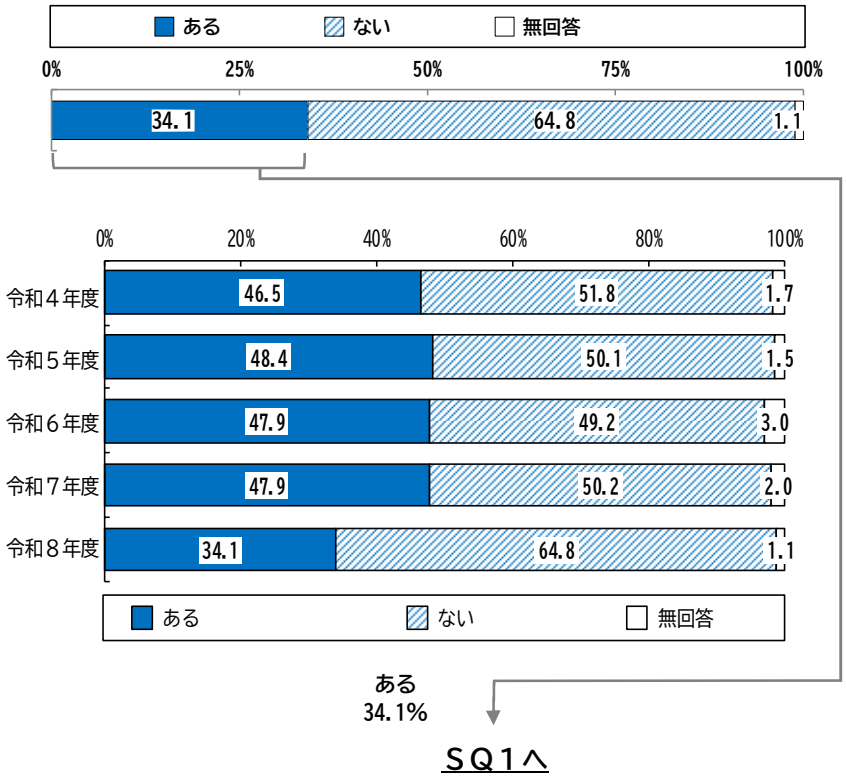
県の仕事への意見や要望、不満

●「意見等がある」と回答した人の割合は34.1%、「意見等がない」は64.8%となっており、「意見等がない」のほうが高くなっている。

経年比較

●「意見等がある」と回答した人の割合は、前年度に比べて低くなっている。

●今年度は「静岡県の仕事」への意見等に限ったため、例年よりも「意見等がない」割合が高くなっている。



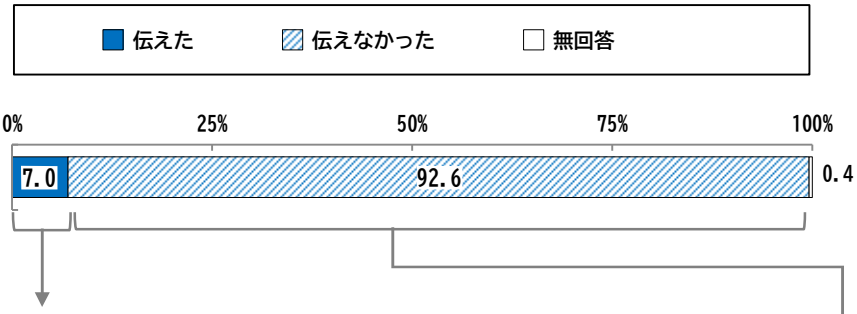
※令和８年度より、「行政機関の仕事」を「静岡県の仕事」に変更した。



SQ1	それでは、そのことを県に伝えましたか。（○は１つ）
SQ2	どのような手段で伝えましたか。（○はいくつでも）
SQ3	意見や要望不満があっても、県に伝えなかった主な理由はなんですか。あなたのお考えに一番近いものを選んでください。（○は１つ）

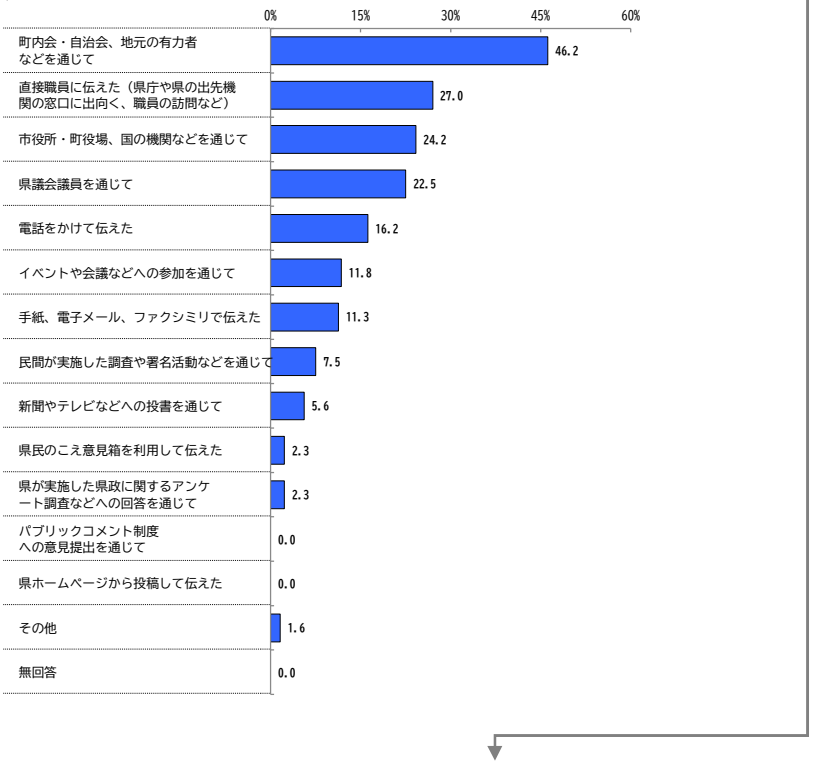
SQ1　伝達の有無

●「県の仕事について意見等がある」人のうち、そのことを県に「伝えた」と回答した人の割合は7.0%、「伝えなかった」は92.6%となっている



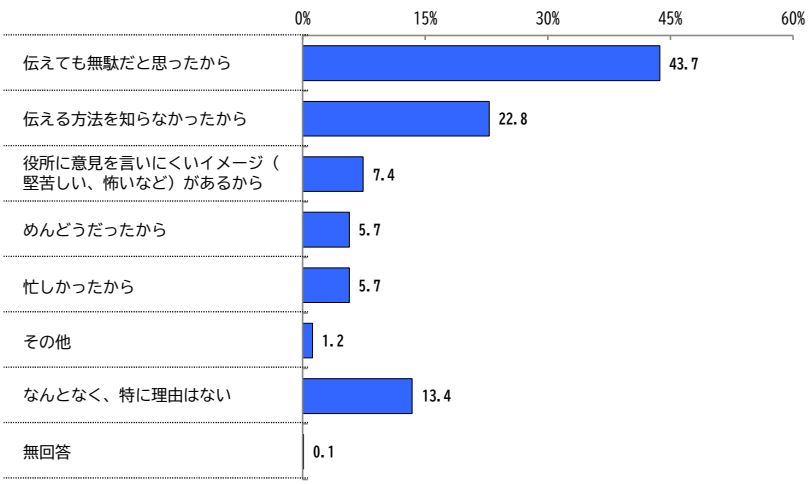
SQ2　伝達方法

●町内会・自治会、地元の有力者などを通じて」(46.2%)が最も高く、以下「直接職員に伝えた（県庁や県の出先機関の窓口に出向く、職員の訪問など)」(27.0%)、「市役所・町役場、国の機関などを通じて」(24.2%) などとなっている。



SQ3　伝達しなかった理由

●「伝えても無駄だと思ったから」(43.7%) が最も高く、以下「伝える方法を知らなかったから」(22.8%)、「なんとなく、特に理由はない」(13.4%) などとなっている。

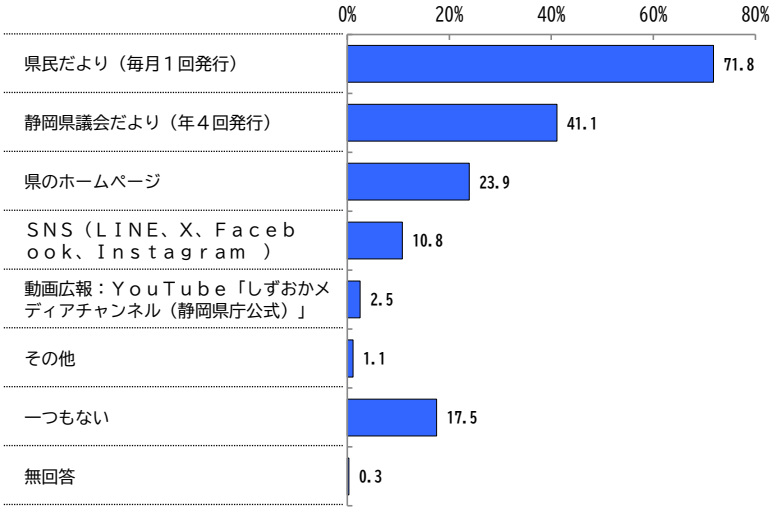


6　広報媒体の浸透度　――　「県民だより」から情報を得る人は54.8%

Q6　県では、県政情報を県民の皆様にお伝えするために様々な広報活動を行っています。次にあげる県の広報のうち、あなたが知っているものは何（どれ）ですか。（○はいくつでも）

広報媒体の認知度

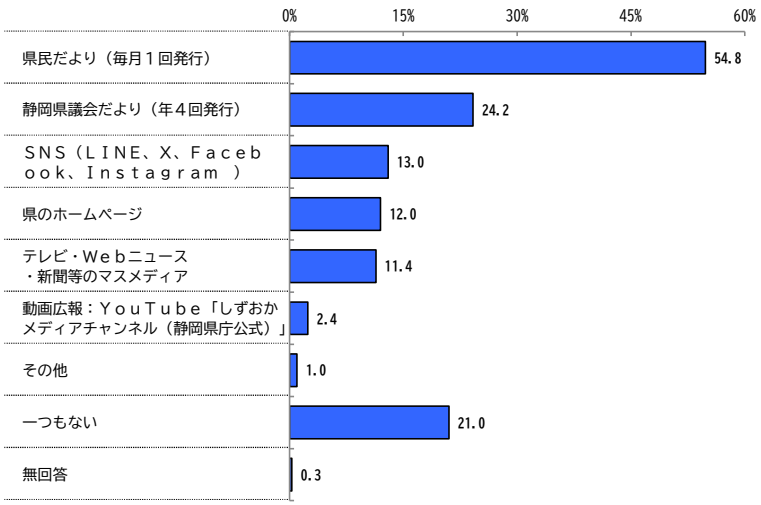
●「県民だより（毎月１回発行）」（71.8%）が最も高く、以下次いで「静岡県議会だより（年４回発行）」（41.1%）、「県のホームページ」（23.9%）などとなっている。



Q7　あなたは普段、何から静岡県の情報を得ることが多いですか。（○はいくつでも）

静岡県の情報を得る手段

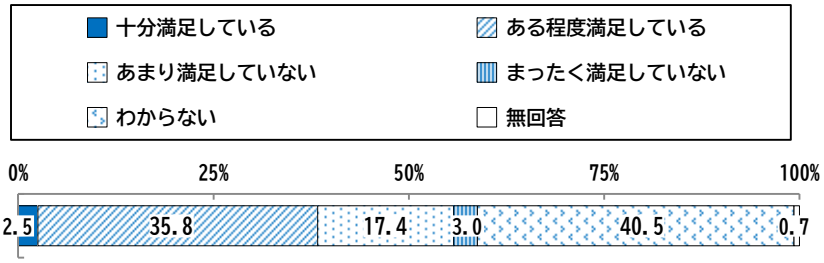
●「県民だより（毎月１回発行）」（54.8%）が最も高く、以下「静岡県議会だより（年４回発行）」（24.2%）、「一つもない」（21.0%）などとなっている。



Q8　あなたは、静岡県が行っている広報活動に満足していますか。（○は１つ）

広報への満足度

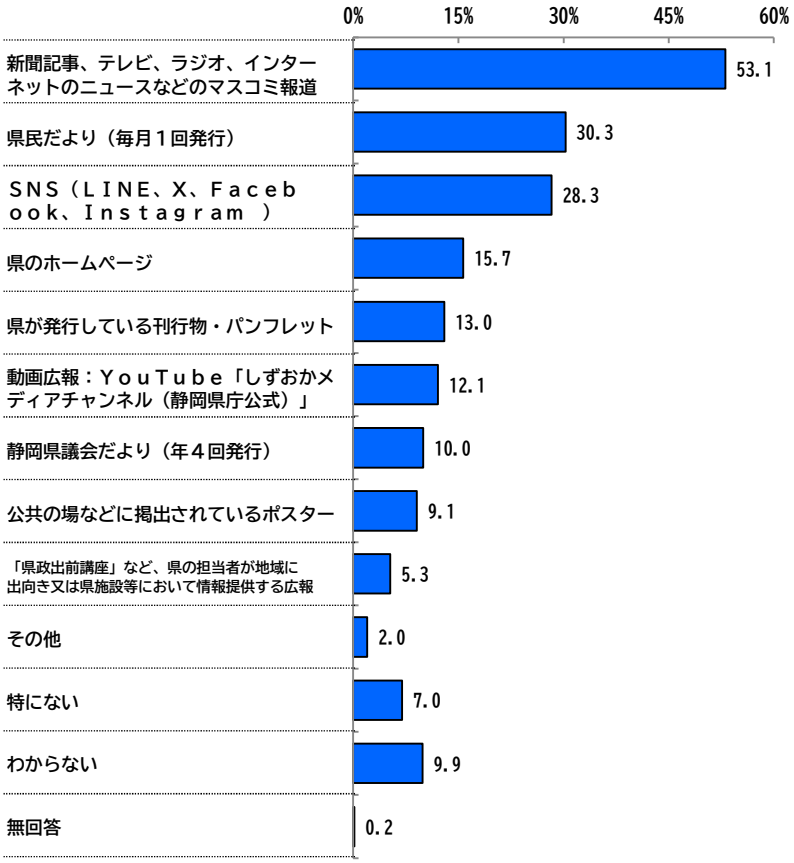
●「わからない」（40.5%）が最も高く、以下「ある程度満足している」（35.8%）、「あまり満足していない」（17.4%）などとなっている。



Q９	あなたは、静岡県が行っている広報活動をより充実させるため、今後どのような活動に特に力を入れるべきだと思いますか。（○は３つまで）

今後力を入れるべき広報活動

● 「新聞記事、テレビ、ラジオ、インターネットのニュースなどのマスコミ報道」（53.1%）が最も高く、以下「県民だより（毎月１回発行）」（30.3%）、「ＳＮＳ（ＬＩＮＥ、X、Ｆａｃｅｂｏｏｋ、Ｉｎｓｔａｇｒａｍ）」（28.3%）などとなっている。





7　日常の課題や生活における意識

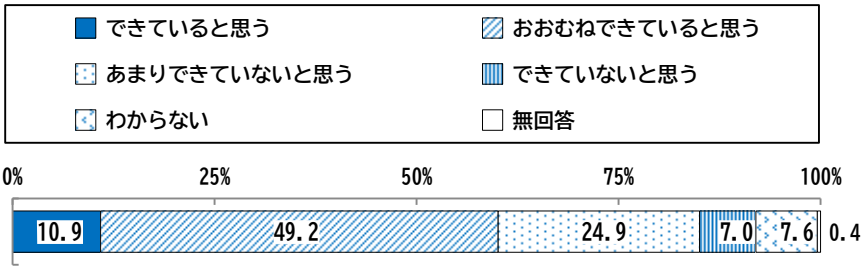
Q10	あなたは、日常生活の中で、自分自身を高めるために何かに取り組んだり、自分自身や周りの人を思いやりながら、社会や他の人々のためにできることを行えていると思いますか。（○は１つ）

※「人づくりのための行動」の例

・色々な体験を積極的にする　・規則正しい生活リズムを心がけている
・周りの人に挨拶をする　・きちんとした立ち居振る舞いや礼儀作法を意識する
・周りの人を大切にする　・感謝の心を言葉や態度で示している
・地域の行事に参加するなど人と触れ合う体験をする
・ボランティア活動を行ったり、困っている人に手を差し伸べる　など

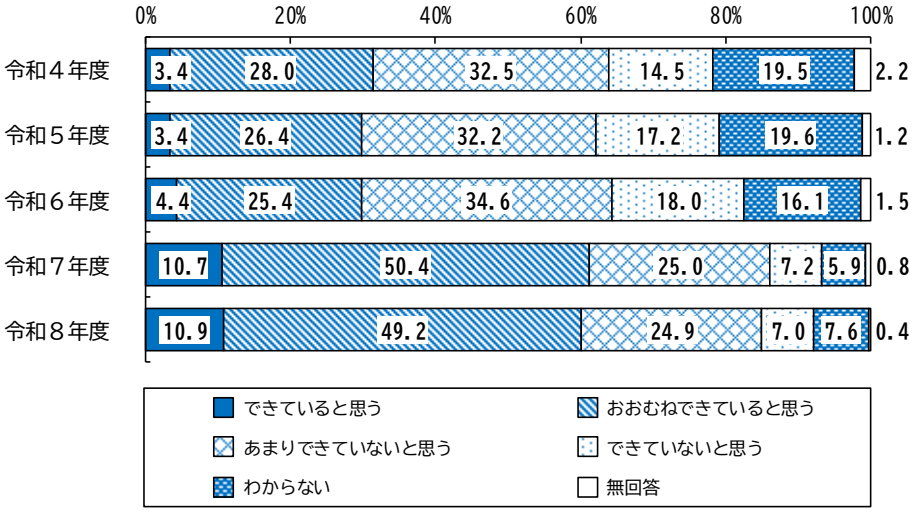
人づくりのための行動

●「できていると思う」(10.9%)と「おおむねできていると思う」(49.2%)を合わせた60.1%は自身を“できている”と評価し、「あまりできていないと思う」(24.9%)と「できていないと思う」(7.0%)を合わせた31.9%は自身を“できていない”と評価している。



経年比較

●「できていると思う」と「おおむねできていると思う」を合わせた自身を“できている”と回答した割合は、令和７年度（61.1%）、令和８年度（60.1%）ともに６割を超えている。



Q11	あなたは、この１年でどのくらい、次にあげるような「子どもをはぐくむ活動」に参加しましたか。（○は１つ）

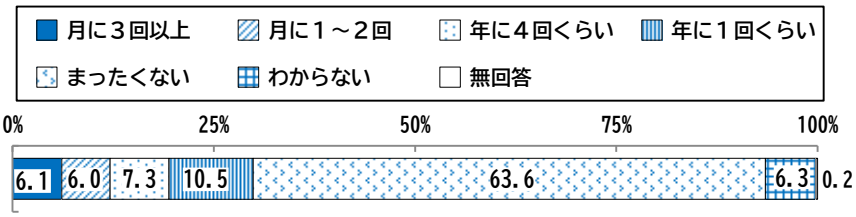
※「子どもをはぐくむ活動」の例

・ＰＴＡや健全育成会、子ども会、ボーイスカウト、スポーツ少年団、子育てサークル等の活動（役員活動だけではなく、保護者やボランティア等としての参加や活動の手伝いも含む）

・学校支援活動や地域における活動（授業や学校行事への協力、部活動支援、放課後の学習支援、放課後子供教室、体験学習、郷土学習、花壇整備、登下校見守り、本の読み聞かせ　など）

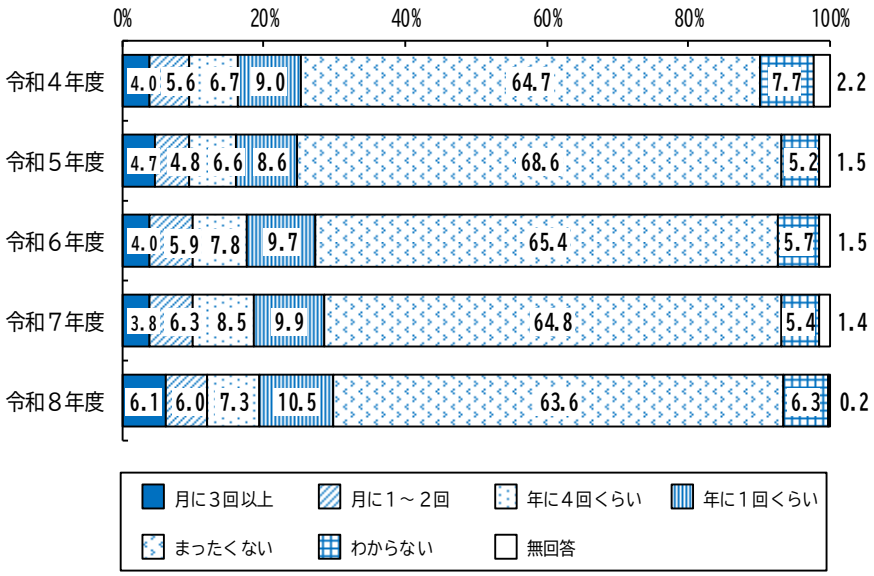
子どもをはぐくむ活動

●「月に３回以上」（6.1%）、「月に１～２回」（6.0%）、「年に４回くらい」（7.3%）、「年に１回くらい」（10.5%）を合わせた29.9%は子どもをはぐくむ活動をしていると回答しており、「まったくない」（63.6%）の半数以下となっている。



経年比較

●子どもをはぐくむ活動をしている人の割合（29.9%）は、前年度（28.5%）から1.4ポイント上回っており、年々微増し令和８年度は、過去５年で最も高くなっている。



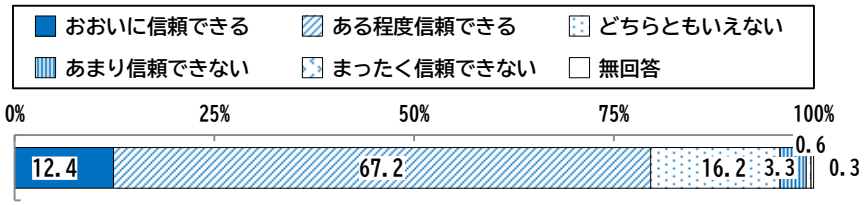
Q12

あなたは、県内で購入する食品の安全性について、どの程度信頼できると思いますか。（○は１つ）

※「食品の安全性」…農産物、輸入食品、遺伝子組換食品などの安全性、食品表示内容の信頼性などをいいます。

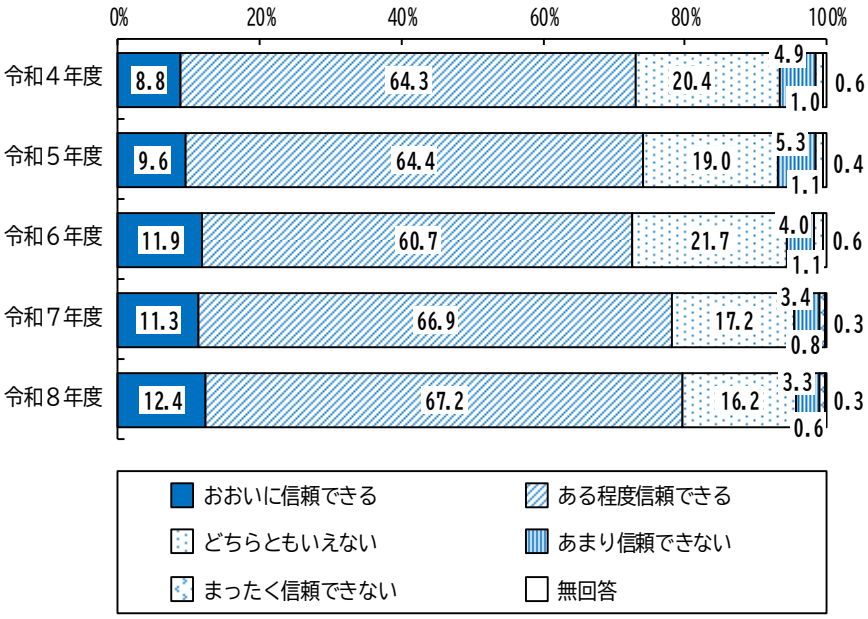
食品の安全性

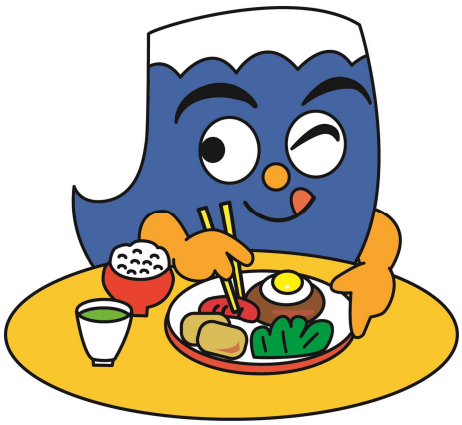
●「おおいに信頼できる」（12.4%）と「ある程度信頼できる」(67.2%)を合わせた79.6%は信頼できると回答し、「あまり信頼できない」（3.3%）と「まったく信頼できない」(0.6%）を合わせた3.9%は信頼できないと回答している。



経年比較

●信頼できる人の割合は、毎年度７割台で推移している。



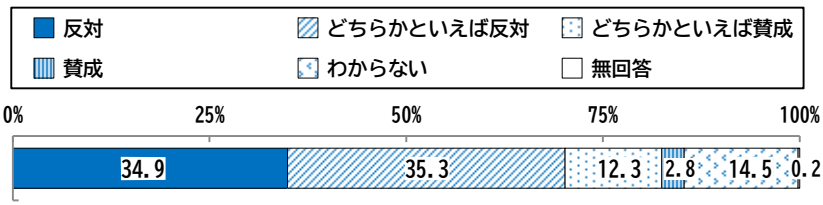


Q13

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」というような男女の役割を固定的に考えることについて、どのように思いますか。（○は１つ）

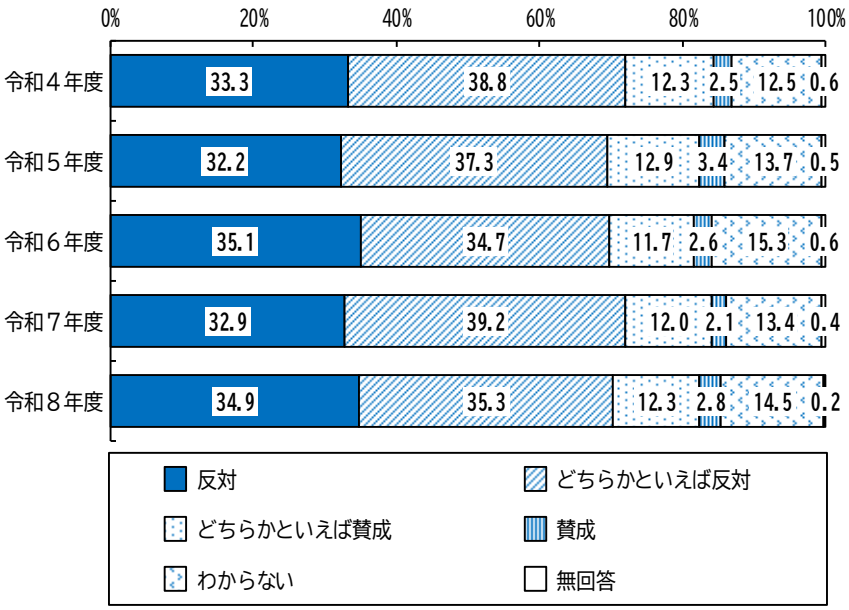
男女共同参画に関する意識

●男女の役割を固定的に考えることに「反対」（34.9%）と「どちらかといえば反対」（35.3%）を合わせた“反対が”70.2%となっており、「どちらかといえば賛成」（12.3%）と「賛成」（2.8%）を合わせた“賛成”が15.1%となっている。



経年比較

●「反対」と「どちらかといえば反対」と思う人の割合は、毎年度７割前後で推移している。



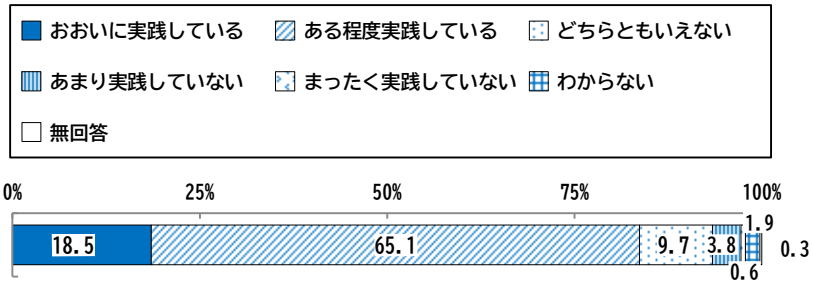
Q14　あなたは、環境への配慮を実践していますか。（○は１つ）

※「環境への配慮」の例

・節電や節水、家庭ごみの分別、マイバッグの持参、低燃費車や省エネ家電への切り替え、エコドライブ、清掃活動への参加、緑化など

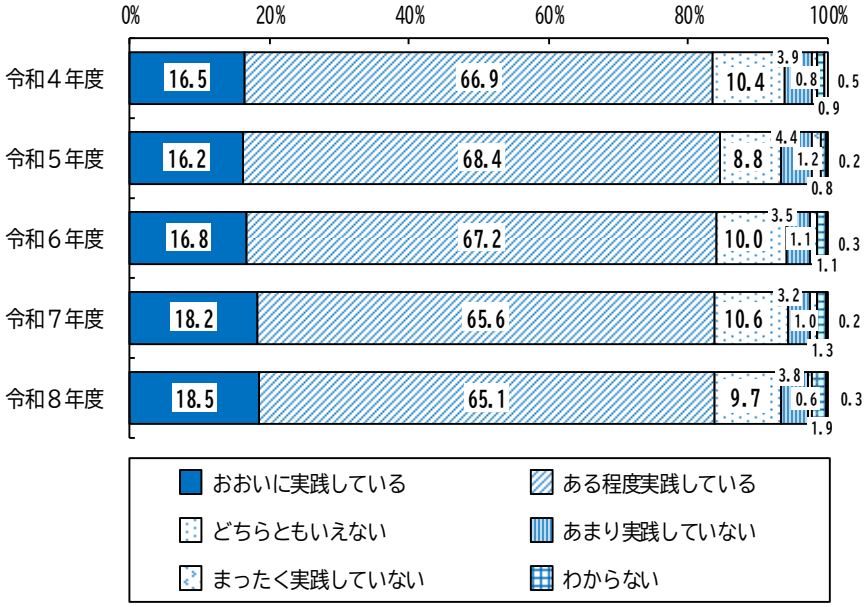
環境保全活動の実践

●「おおいに実践している」(18.5%)と「ある程度実践している」(65.1%)を合わせた83.6%は実践していると回答し、「あまり実践していない」(3.8%)と「まったく実践していない」(0.6%)を合わせた4.4%は実践していないと回答している。



経年比較

●実践している人の割合は、毎年度８割台で推移している。

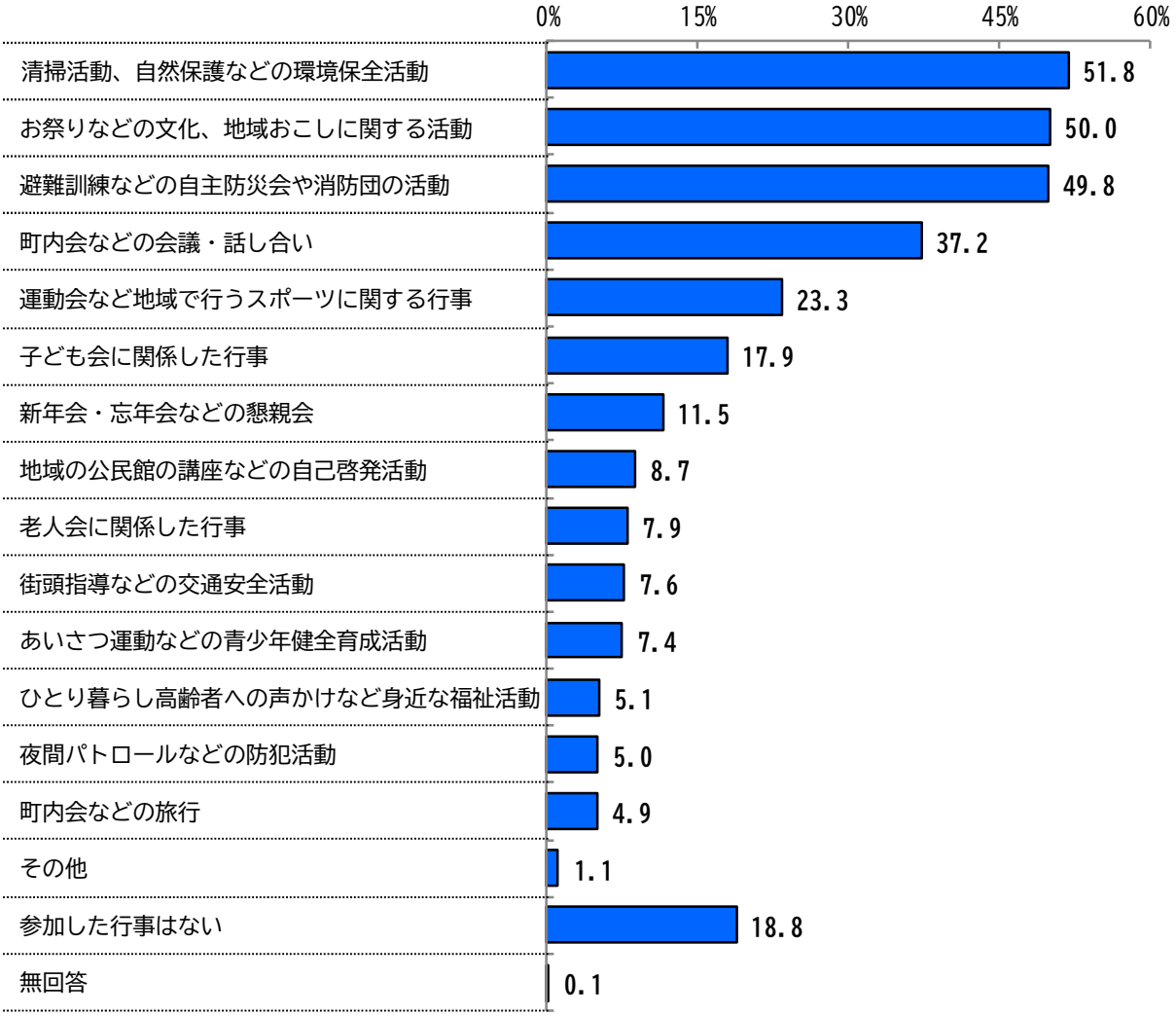


Q15	あなたは、地域のどのような行事や活動に参加したことがありますか。 （○はいくつでも）

地域活動への参加

- 「清掃活動、自然保護などの環境保全活動」（51.8%）が最も高く、以下「お祭りなどの文化、地域おこしに関する活動」（50.0%）、「避難訓練などの自主防災会や消防団の活動」（49.8%）などとなっている。
- 「参加した行事はない」は18.8%となっている。

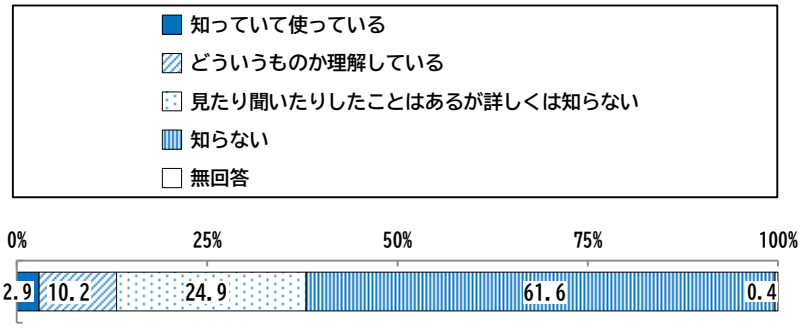




Q16　「やさしい日本語」について教えてください。（○は１つ）

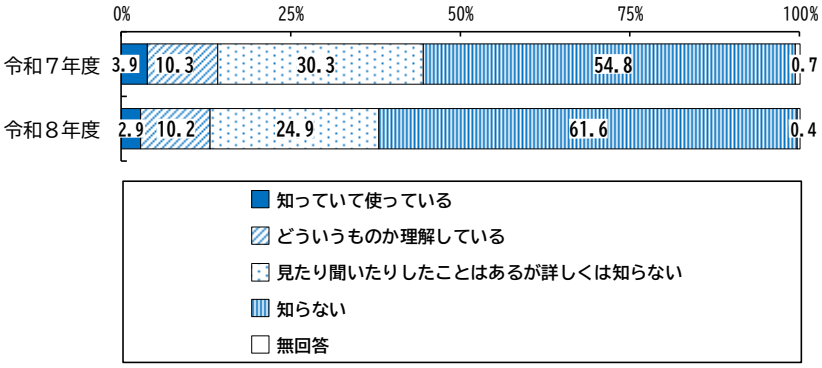
やさしい日本語の浸透度

●「知っていて使っている」(2.9%)、「どういうものか理解している」(10.2%)、「見たり聞いたりしたことがあるが詳しくは知らない」(24.9%) を合わせた“知っている”が38.0%となっている。



経年比較

●“知っている”と回答した人の割合は、前年度に比べて低くなっている。

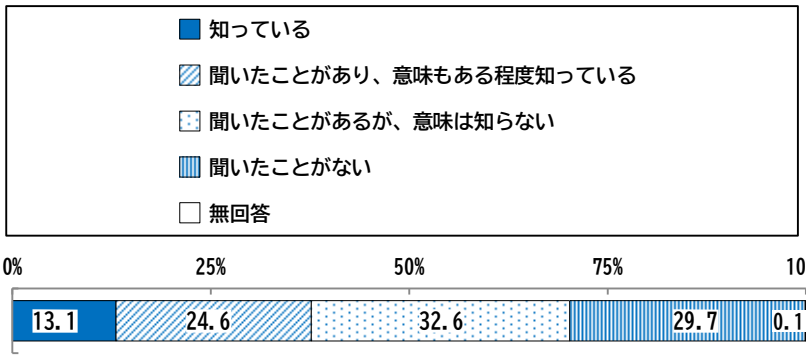


Q17　「生物多様性」という言葉や意味について、どの程度知っていますか。（○は１つ）

※「生物多様性」…地域ごとに固有の自然や特有の生物が存在し、その生物が“食べる－食べられる”といった食物連鎖などの関係でつながっていることをいいます。人類は、生物多様性からもたらされる様々な恵みに支えられており、この恵みを今後も享受していくためには、生物多様性を維持し後世へ継承していくことが必要不可欠です。

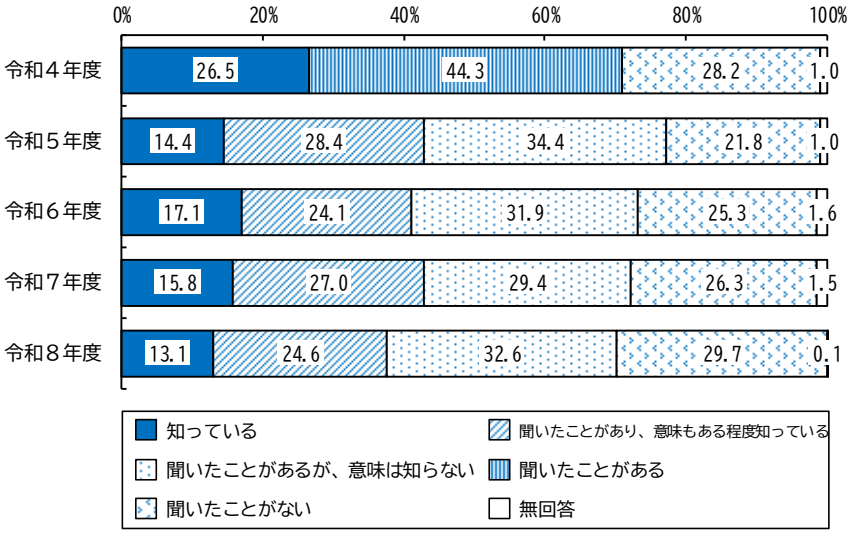
生物多様性への理解

●「知っている」（13.1%）、「聞いたことがあり、意味もある程度知っている」（24.6%）、「聞いたことがあるが、意味は知らない」（32.6%）を合わせた70.3%は生物多様性について“聞いたことがある”としている。



経年比較

●生物多様性について浸透している割合は、令和４年度以降毎年７割台で推移している。

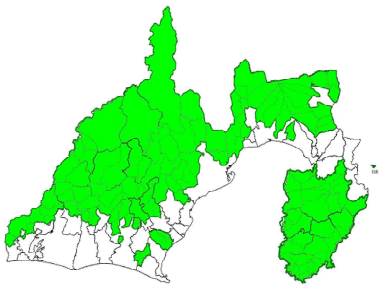


※令和５年度より、「聞いたことがある」を削除し、「聞いたことがあり、意味もある程度知っている」、「聞いたことがあるが、意味は知らない」を新設。



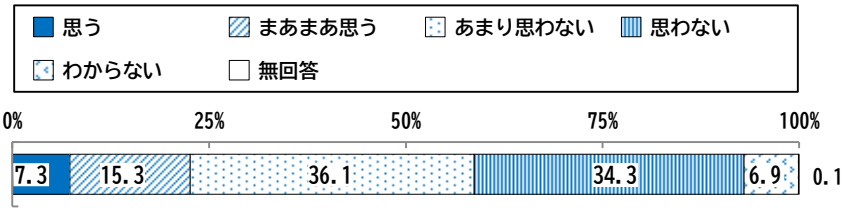
Q18	あなたは、中山間地域に住みたいと思いますか。（中山間地域にお住まいの方は、住み続けたいと思いますか。）（○は１つ）

※「中山間地域」…「平野の周辺部から山間部に至る地域」で、
　農林業を主な産業としている地域のことをいいます。
※県内の中山間地域のイメージは、右図の網掛け部分です。



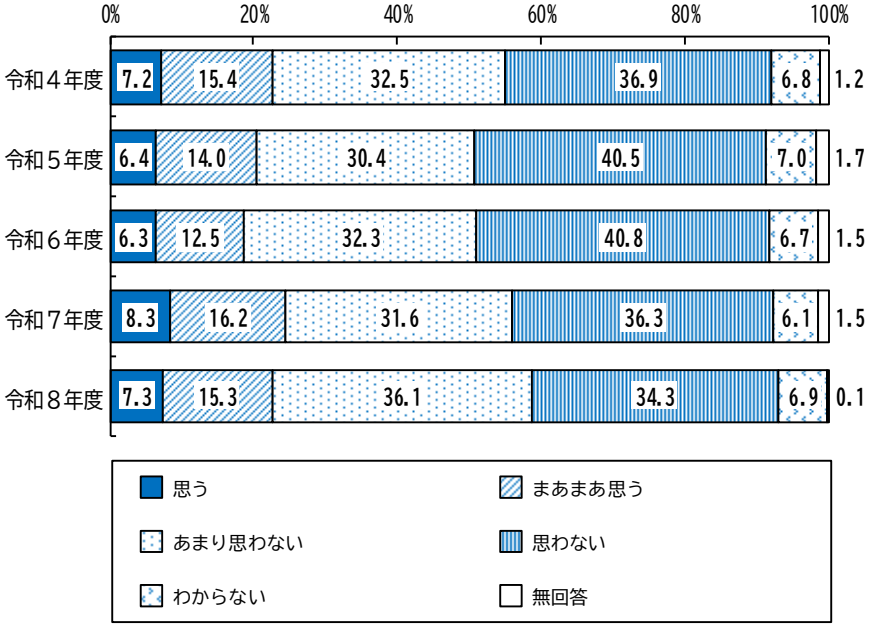
中山間地域での生活意向

●「思う」(7.3%)と「まあまあ思う」（15.3%）を合わせた22.6%は住みたいと思うと回答し、「あまり思わない」（36.1%）と「思わない」（34.3%）を合わせた70.4%は住みたいと思わないと回答している。



経年比較

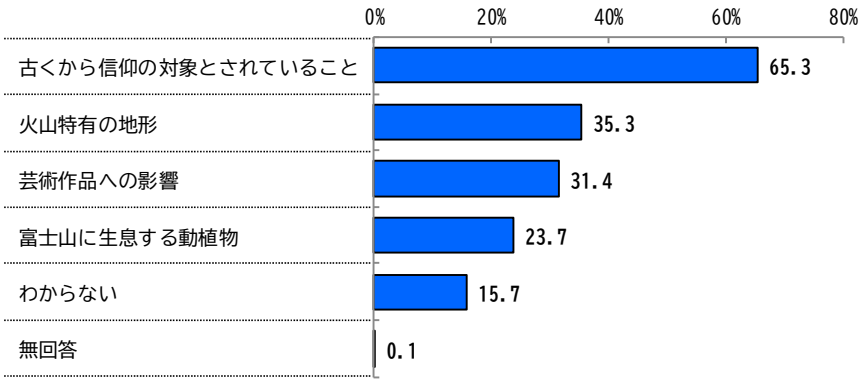
●住みたいと思う人の割合は、毎年度２割前後で推移している。



Q19	富士山は世界文化遺産として大きく２つの価値が認められました。あなたは、次のうち、どれが認められたと思いますか。（○は２つ）

富士山の世界文化遺産としての価値

- 「古くから信仰の対象とされていること」（65.3%）が最も高く、以下「火山特有の地形」（35.3%）、「芸術作品への影響」（31.4%）などとなっている。
- 「わからない」は15.7%となっている。





Q20	あなたは、この１年でどのくらい文化芸術に関する活動の実践や支援をしましたか。（○は１つ）

※「文化芸術」…芸術（文学、音楽、美術、演劇、舞踊等）、メディア芸術（映画、漫画、アニメ、ゲーム等）、伝統芸能（地域固有の祭礼や行事等）、生活文化（茶道、華道、食文化等）、国民娯楽（囲碁、将棋）、伝統工芸、文化財等を意味しています。

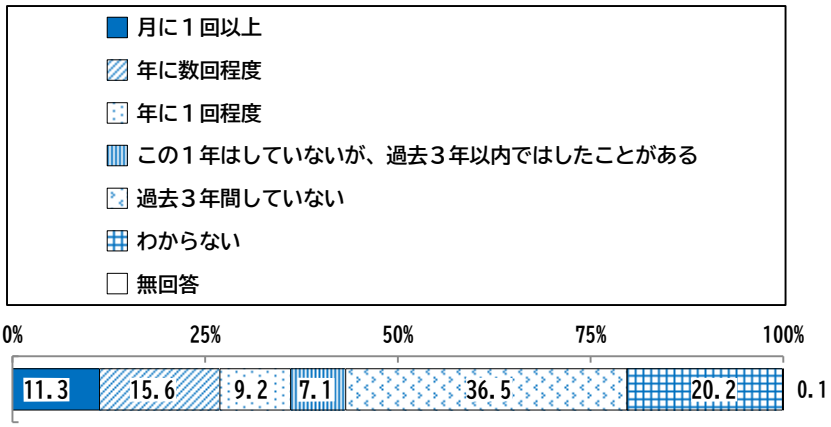
※「活動」…個人又はグループで、文化・芸術を継続して行う経験を意味しています。単発の活動やお試しの体験講座等は含みません。

※「実践」…創作や出演、習い事、祭りや体験活動への参加などを意味しています。

※「支援」…ボランティア等により、文化芸術に関する活動を補助、継承することを意味しています。

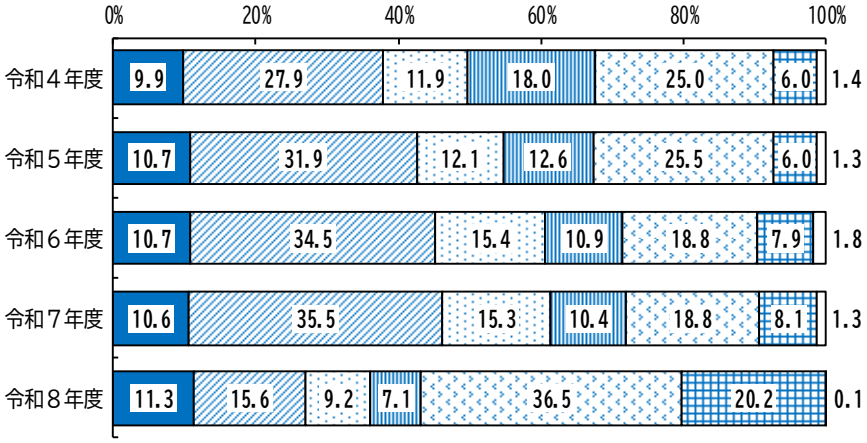
文化芸術に関する活動の実践や支援

●「月に１回以上」（11.3%）、「年に数回程度」（15.6%）、「年に１回程度」（9.2%）を合わせた36.1%はこの１年で文化芸術に関する活動の実践や支援をしている。



経年比較

●今年度から設問を一部変更している。



※令和８年度より、設問の「鑑賞又は活動」を「活動の実践や支援」に変更した。



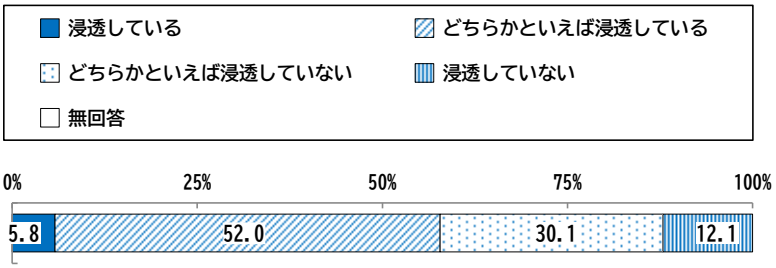
Q21	あなたは、ユニバーサルデザインが県民の生活に浸透していると感じますか。（○は１つ）

※「ユニバーサルデザイン」の例

バリアフリートイレ（多機能トイレ等）、スロープ、エレベーターなどの施設・設備、多言語標記・見やすい文字や色づかいの掲示板や印刷物などサービスや情報・製品、障害のある方、高齢者、妊産婦などに席を譲ったり、声をかけたりする支え合いの行動等。

ユニバーサルデザインの浸透度

- 「浸透している」(5.8%) と「どちらかといえば浸透している」（52.0%）を合わせた57.8%はユニバーサルデザインが県民の生活に“浸透している”と回答し、「浸透していない」(12.1%) と「どちらかといえば浸透していない」（30.1%）を合わせた42.2%はユニバーサルデザインが県民の生活に“浸透していない”と回答している。





Q22	あなたは、今の静岡県が「人権尊重の意識が生活の中に定着した県」であると感じますか。（○は１つ）

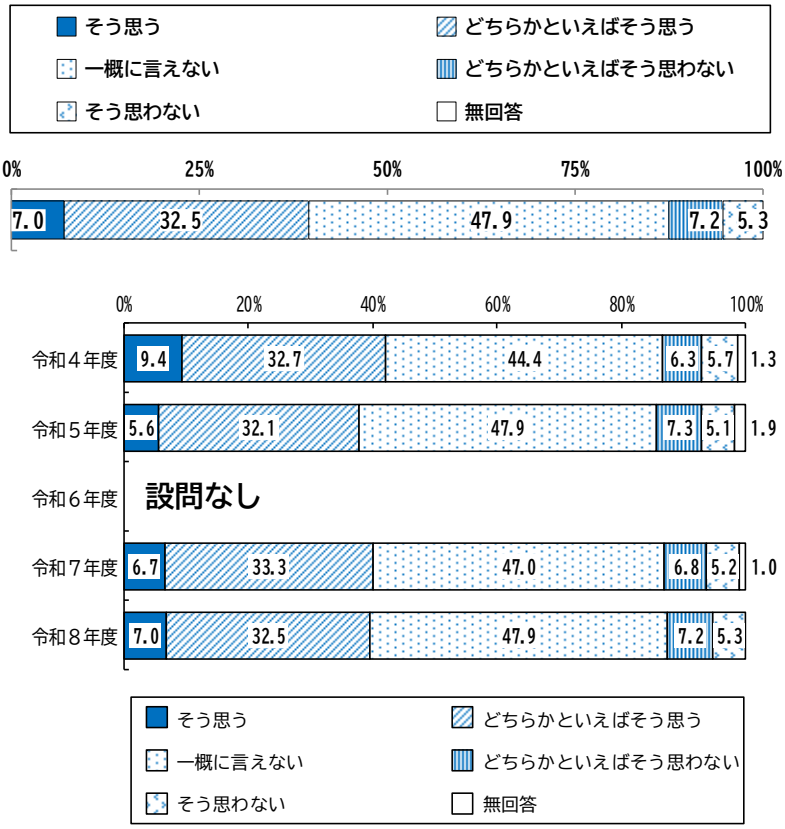
※「人権尊重の意識」・・・ 人権は、私たち一人ひとりの生命や自由・平等を保障し、日常生活を支えている大切な権利で、日本国憲法にも保障されています。この権利を尊重し、私たち一人ひとりが自分や他者を大切にしようとする意識のことをいいます。

人権尊重の意識

●「そう思う」(7.0%) と「どちらかといえばそう思う」(32.5%) を合わせた39.5%は人権尊重の意識が生活の中に定着した県だと思うと回答し、「どちらかといえばそう思わない」(7.2%) と「そう思わない」(5.3%) を合わせた12.5%は人権尊重の意識が生活の中に定着した県だと思わないと回答している。

経年比較

●人権尊重の意識が生活の中に定着した県だと思う人の割合 (39.5%) は、令和７年度 (40.0%) と比較してほぼ変化していない。



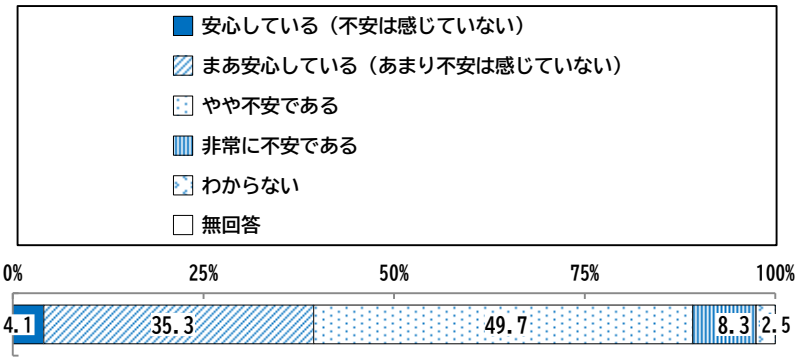


8　体感治安に関する意識

Q23	あなたは、あなたやあなたの家族が、県内で犯罪被害に遭うのではないかという不安を、どの程度感じていますか。（○は１つ）
ＳＱ１	不安を感じている犯罪は何ですか。（○はいくつでも）

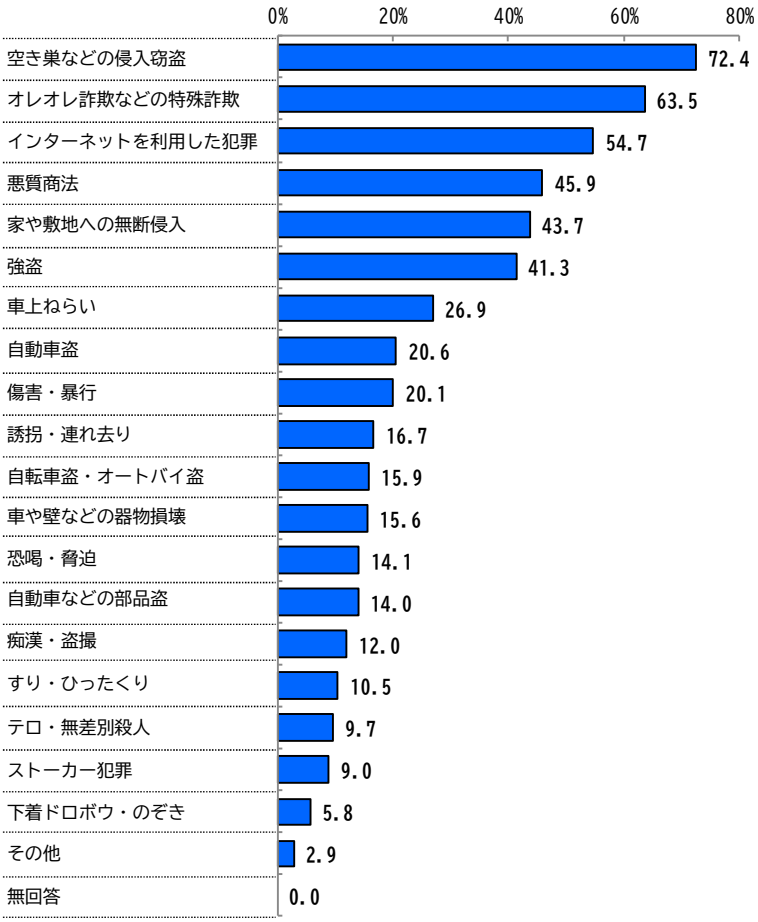
体感治安に関する意識

●「やや不安である」（49.7%）が最も高く、以下「まあ安心している（あまり不安は感じていない）」（35.3%）、「非常に不安である」（8.3%）などとなっている。



不安を感じている犯罪

●「空き巣などの侵入窃盗」（72.4%）が最も高く、以下次いで「オレオレ詐欺などの特殊詐欺」（63.5%）、「インターネットを利用した犯罪」（54.7%）などとなっている。



９　森林整備に関する意識

Q24

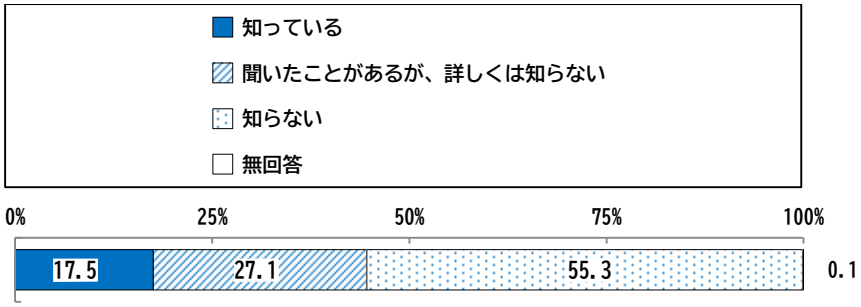
県は、県民の皆様に、「森林（もり）づくり県民税（個人４００円/年）」を負担していただき、「荒廃している森林」を再生する「森の力再生事業」を実施しています。あなたは、「森の力再生事業」を、知っていますか。（○は１つ）

※「森の力」……森林の持つ「山崩れの防止」や「水を蓄える」などの様々な機能のことをいいます。

※「荒廃している森林」…所有者による整備が困難なため、「森の力」が十分に発揮されず、緊急に整備しなければ県民生活に支障を及ぼすおそれがある森林のことをいいます。

「森の力再生事業」の浸透度

●「知っている」（17.5%）、「聞いたことがあるが、詳しくは知らない」（27.1%）、を合わせると44.6%となっている。

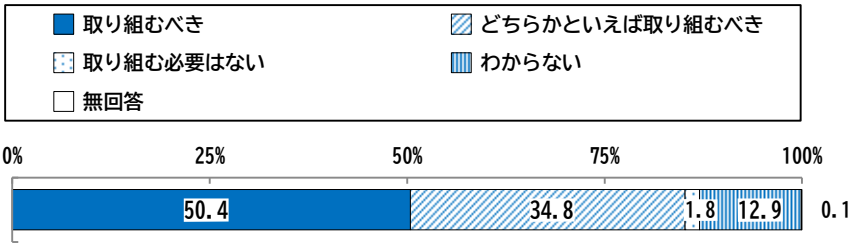


Q25

県が「森の力再生事業」に取り組むことについて、どのようにお考えですか。（○は1つ）

「森の力再生事業」への意見

●「取り組むべき」（50.4%）が最も高く、以下次いで「どちらかといえば取り組むべき」（34.8%）、「わからない」（12.9%）などとなっている。



１０　安心・幸せな暮らしに関する意識

Q26	県では、県民の皆様が、日々の暮らしやすさや幸せを実感できる社会の実現を目指し、県政運営を進めています。 あなたが今後、安心して幸せに暮らすために、特に必要だと思うことを１つお答えください。（自由記述・50 文字以内）

安心して幸せに暮らすために特に必要だと思うこと

- 「雇用・所得」（16.0%）に関する回答が最も多く、以下「事故・犯罪」（14.9%）、「地域行政」（10.7%）、「医療・福祉」（10.4%）、「地域とのつながり」（8.4%）に関する回答が多くなっている。

主な内容

- 「雇用・所得」

  物価高対策、減税、年金制度の改善、賃金・所得の向上、雇用確保・支援等に関する回答。

- 「事故・犯罪」

  治安維持、防犯設備、匿名・流動型犯罪等対策、交通安全等に関する回答。

- 「地域行政」

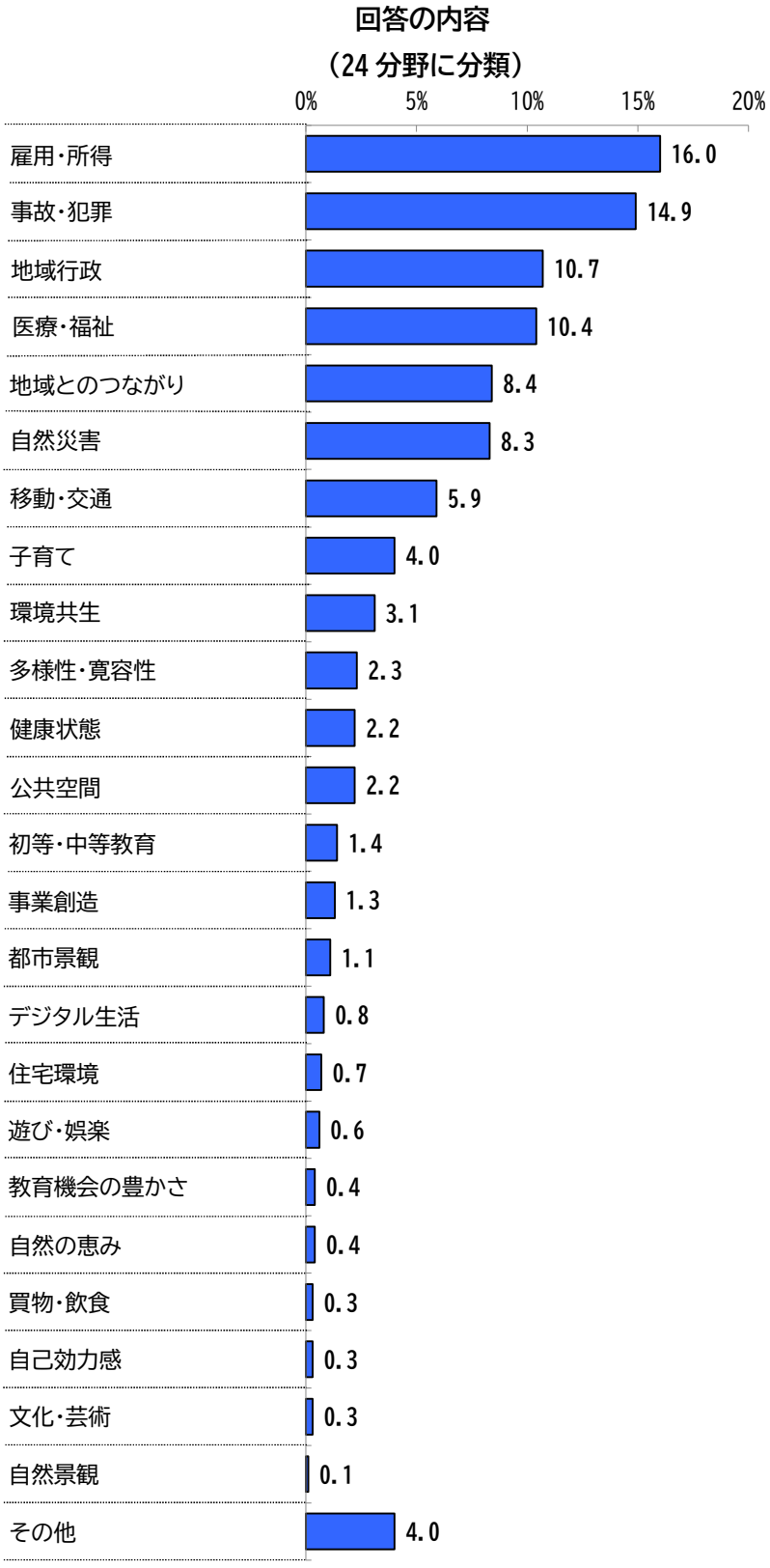
  県財政、広報、人口減少対策、インフラ等に関する回答。

- 「医療・福祉」

  介護、医療体制の充実、医療費負担の軽減、介護者支援、障害者福祉等に関する回答。

- 「地域とのつながり」

  近隣交流・挨拶、高齢者の見守り、自治会活動等に関する回答。



令和８年度

県 政 世 論 調 査

概 要 報 告 書

令和８年11月

編集・発行　静岡県企画部広報戦略課県民のこえ班
〒420-8601　静岡市葵区追手町９番６号
電話（054）221-2235
ＦＡＸ（054）254-4032
e-mail kenminnokoe@pref.shizuoka.lg.jp

静岡県政世論調査

あなたのこえが静岡県政をつくる



静岡県　企画部　　広報戦略課　県民のこえ班 TEL:054-221-2235